

市道小川高倉線改良工事関連

下 羽 広 遺 跡

— 第3次発掘調査報告 —

平成9年3月

福島県郡山市建設部道路建設課
福島県郡山市教育委員会
財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

しも は びろ 下 羽 広 遺 跡

— 第 3 次発掘調査報告 —

平成 9 年 3 月

福島県郡山市建設部道路建設課
福島県郡山市教育委員会
財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

序 文

郡山市は、昭和40年に近隣町村と合併し、市域も全国第12位の広さを持つ東北有数の都市となりました。現在では、人口32万人を有し、豊かな水、緑あふれる経済都市として、着実な発展を続けております。

その一方で、市内には、1,165ヶ所にものぼる遺跡が所在しており、それらの貴重な資料を保護、保存していくことは、現代に生きる私たちの重要な責務であると考えております。やむおえず、諸開発により消滅する遺跡については、発掘調査を実施し、記録保存を図っております。

本書で報告いたしますのは、郡山市中田町高倉地内において市道小川高倉線の改良工事に伴い消滅する下羽広遺跡の発掘調査についてであります。なお、平成9年度・10年度には、同一路線の改良工事に伴い、高倉栗遺跡と宮ノ脇遺跡についても発掘調査を実施する予定となっております。本書が、文化財の保護並びに地域の歴史を解明する基礎資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に、調査から報告書の作成にあたり、御協力頂きました関係機関・関係者各位に対し感謝の意を表するものであります。

平成9年3月

郡山市教育委員会

教育長 丹 治 勇

調 査 要 項

遺 跡 名	しもはびろ 下羽広遺跡（福島県埋蔵文化財包蔵地番号 2030595）
所 在 地	福島県郡山市中田町字下羽広・竹ノ内
調 査 面 積	3,650㎡
調 査 期 間	平成 8 年11月 1 日～平成 9 年 1 月17日
調査委託者	福島県郡山市建設部道路建設課
調査主体者	福島県郡山市教育委員会（教育長 丹治 勇）
調査担当者	財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団（理事長 小針貞吉）
調 査 員	高橋博志 中島雄一 松本和子
調査補助員	古川 正 佐久間トミ 森 薫
発掘作業員	神山テル子 神山ユミ 熊田一男 熊田今朝雄 佐竹一子 佐藤保宏 先崎喜久男 先崎ケサ子 先崎美代子 中尾熊吉 橋本オサク 橋本スミ子 橋本タカ子 橋本武久 橋本ハル子 橋本トシ子 橋本トミイ 橋本ハナ子 橋本久子 橋本ヒデ子 半沢ケサ 宗形シロ 宗像ヤス子 宗形徳見 宗形ハルヨ 宗形美智子 宗形義昭 松本節子 矢板誠一
助言・協力	橋本 操
協 力 機 関	東北農政局郡山東部土地開拓建設事業所 郡山東部土地改良区 三井不動産建設株式会社

例 言

1. 本書は、平成8年度の市道小川高倉線改良工事に伴う下羽広遺跡の第3次発掘調査報告である。
2. 本調査は郡山市建設部道路建設課と郡山市教育委員会との間に締結された協定に基づき、郡山市教育委員会が財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団に調査を委託契約し実施したものである。
3. 本調査の費用は全額郡山市建設部道路建設課の負担である。
4. 本書に掲載した遺構・遺物実測は高橋博志、中島雄一、松本和子、佐久間トミ、森薫、佐藤保宏、永沢光江が分担して作成し、これを二瓶幸枝、村上尚子がトレースしたものである。
5. 本書に掲載した遺構の写真は中島雄一が撮影した。また、航空写真は関東電設株式会社スカイパスコ事業部に委託し、ラジコンヘリコプターで撮影した。
6. 本書に掲載した1/250,000、1/100,000、1/25,000の地形図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の1/200,000、1/50,000、1/25,000の地形図を縮小・複製（平9東北第75号）したものである。
7. 本書は、第2章第1節を高橋博志が執筆し、それ以外の中島雄一が執筆した。
8. 本書の編集は財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団が行い、発行の責任は郡山市教育委員会にある。

凡 例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は、平面直角座標IX系の座標北を示す。
2. 本書に掲載した遺構図の水系レベルは海拔高度を示す。
3. 本書に掲載した実測図の縮小率は原則として以下の通りとし、各図に縮小率を明示した。
周辺地形図… 1/2,000 工事計画図… 1/3,000 遺跡全体図… 1/500 基本層序… 1/50
土坑… 1/50 石切り場 1/250
4. 遺構番号は下羽広遺跡第1次・第2次調査からの通し番号である。
5. 本書で使用した略字は以下のとおりである。
L＝遺構外基本土層
6. 第9図使用の線の表現は以下のとおりである。
墨＝等高線・調査区範囲 青＝現地形 薄茶＝凝灰岩露頭範囲
7. 第10図No①～⑤と、第11～13図のNo①～⑤は対応するものである。

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧（1）	4	第3表 周辺遺跡一覧（3）	6
第2表 周辺遺跡一覧（2）	5		

図 版 目 次

図版1 下羽広遺跡	図版3 石造物（1）
1 下羽広遺跡全景（上方から）	1 石山神宮（東から）
2 下羽広遺跡全景（上方西から）	2 台供養塔（東から）
図版2 土坑	図版4 石造物（2）
1 77号土坑全景（南から）	1 三渡地内板碑（東から）
2 78号土坑全景（南から）	2 古御館地内板碑（西から）
3 79号土坑全景（南から）	
4 80号土坑全景（西から）	
5 81号土坑全景（西から）	
6 作業風景	
7 作業風景	
8 作業風景	

目 次

序 文
調査要項
例 言
凡 例

第 1 章 位置と環境 1
第 1 節 地理的環境 1
第 2 節 歴史的環境 1
第 2 章 調査の経緯 7
第 1 節 調査に至るまで 7
第 2 節 調査経緯 7
第 3 節 グリッドの設定 11
第 3 章 遺構と遺物 15
第 1 節 調査概要 15
第 2 節 土 坑 15
第 3 節 石切り場跡 19
第 4 章 まとめ 20

図 版
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 周辺遺跡分布図 3	第10図 高倉地内板碑分布図 21
第 2 図 施工図 8	第11図 石造物（1） 22
第 3 図 周辺地形図 9	第12図 石造物（2） 23
第 4 図 グリッド設定図 11	第13図 石造物（3） 24
第 5 図 基本層序 12	
第 6 図 全体図 13	
第 7 図 土 坑 16	
第 8 図 石切り場跡 17	
第 9 図 出土遺物 19	

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

下羽広遺跡は福島県郡山市中田町字下羽広・竹ノ内に所在する。

福島県は阿武隈山地と奥羽脊梁山脈を境として3地区に区分され、太平洋岸地域を「浜通り地方」、阿武隈山地と奥羽山脈に挟まれた低地を「中通り地方」、奥羽山脈の西側を「会津地方」と呼ばれる。気候的には、浜通り地方は太平洋側気候、会津地方は日本海側気候を有している。中通り地方については太平洋側気候と日本海側気候の中間的な気候といえる。郡山市は中通り地方の中央に位置し、比較的穏やかで四季の変化に富み、年間を通して風が強く乾燥している。年平均気温は12.5℃程度で、年降水量は1,100mm台である。中央部及び東部は太平洋側気候に近い特性をもち、その中で中央の平野部は酷寒酷暑の盆地特有の気候を有する。これに対し西部の湖南地方はむしろ日本海側気候の特性を示す。

下羽広遺跡の所在する中田町地域は、郡山盆地東縁部の、阿武隈川東岸沿いの阿武隈山地北西山腹地に属する。阿武隈山地北西山腹地は、地質的には中生代の旧期花崗閃緑岩、新期花崗岩類が広く分布する。これらの岩石は著しい風化作用を受けてマサ化し、準平原の大小の河谷に砂・礫となって堆積している。また、これらの花崗岩の上に鮮新世に形成されたと考えられている石英安山岩質凝灰岩が部分的にのっている。この阿武隈北西山腹地は、白沢丘陵、三春丘陵、中田丘陵の三丘陵に分けられており、下羽広遺跡はこのうち中田丘陵に位置する。遺跡周辺には標高300～350m前後のなだらかな丘陵が連なっており、阿武隈川にそそぐ東西・南北の複数の支流によって樹枝状の開析谷が発達し複雑な地形になっている。これらの地表をおおう表層土壌は、母材には凝灰岩質物が多く、火山灰質堆積物の特徴がうかがわれる赤黄色土壌や、粘質で斑紋をもつ強グライ土壌、灰褐色土壌が堆積している。

下羽広遺跡は、JR東北線郡山駅から阿武隈川を越えて東南約5kmの地点にあり、70m北側には県道郡山・小野新町線が東西に通っている。本遺跡は、四方を丘陵に挟まれた東西にのびる小丘陵の頂部平坦面から南・西・北側裾部を占地している。この小丘陵は北・南側は東西に入り組む開析谷に、西側は南北にのびる開析谷に画されている。標高は290m前後で、平坦面と裾部との比高は5～13mである。現況は大半が桑畑で、一部畑地になっており、開析谷底は水田が作られている。

第2節 歴史的環境

近年の調査により、下羽広遺跡周辺には西側を北流する谷田川や、北側を西流する大滝根川の沖積地や段丘面、さらにはこれらに平行・直交する丘陵上に数多くの遺跡が分布することがわかってきた。ここでは調査の成果を踏まえて各時代の遺跡を概観する。

旧石器時代は例が少なく、周辺では田村町上行合の宮田A遺跡で縦長ブレイド2点が出土している。

縄文時代になると遺跡は急増する。前期では田村町手代木の鴨打B遺跡がある。ここでは中葉～後葉

第2節 歴史的環境

の土器が出土している。中期になると、大木7b～8a式期の土器が出土したフラスコ状土坑が知られる田村町手代木の鴨打A遺跡、同様のフラスコ状土坑を検出した中田町赤沼の猫田E遺跡、後葉の住居跡を検出した中田町赤沼の倉屋敷遺跡などがある。後期では、初頭の埋甕が中田町高倉の宮ノ脇遺跡から、前葉の住居跡が鴨打B遺跡から検出されている。この他、詳細な時期は不明であるが、逆茂木が残存する落し穴が確認された中田町赤沼の赤沼遺跡が著名である。晩期では倉屋敷遺跡で大洞C₁式土器が見つかった。

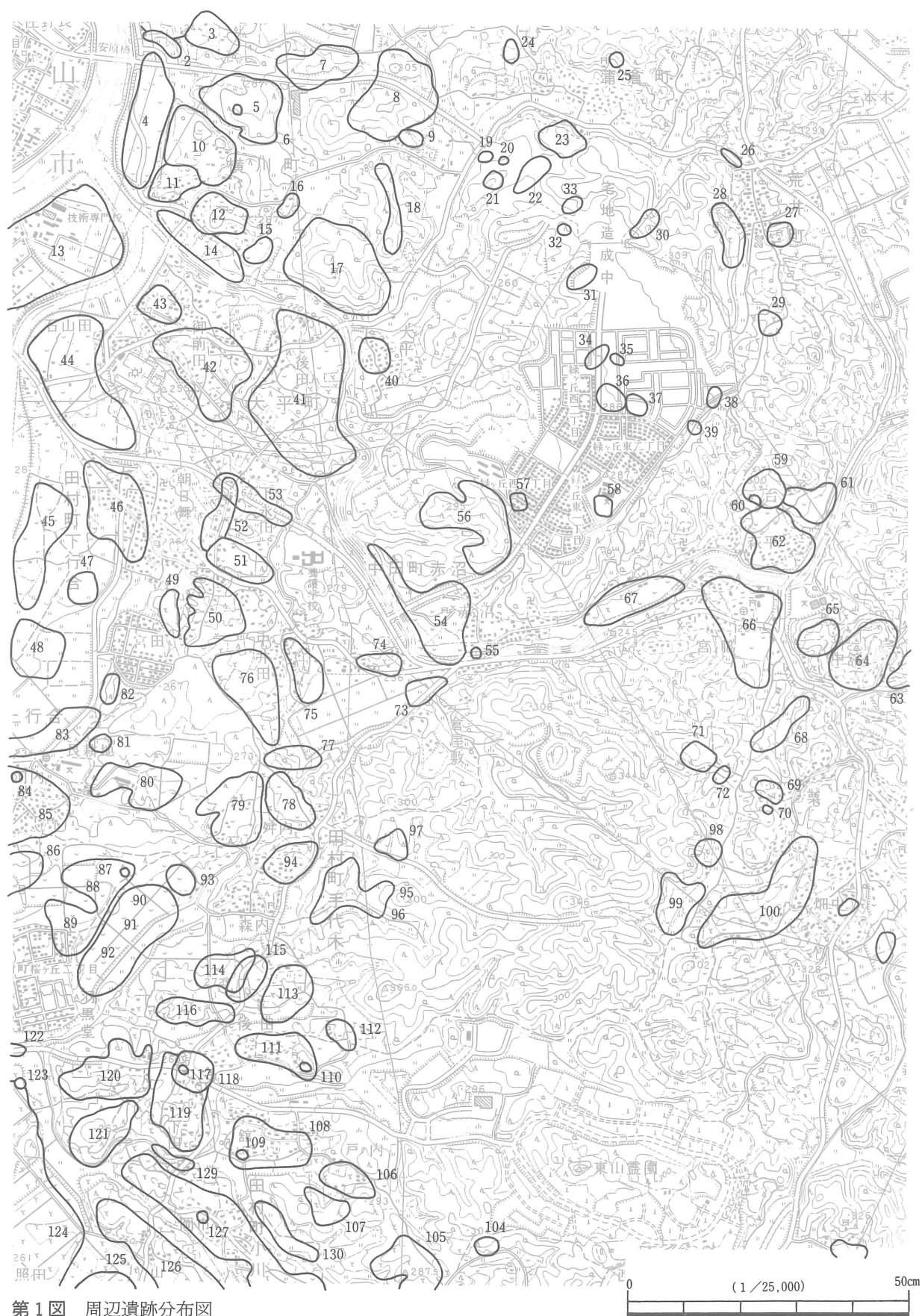
弥生時代は、中田町赤沼の下永田B遺跡から住居跡が1棟だけ検出されている。同時代の遺構は郡山市内でも数少なく、貴重な資料といえる。

古墳時代の集落跡としては、中～後期の大集落である田村町上行合の南山田遺跡、石製模造品製作工房跡等が見つかった永作遺跡や、前期以降の住居跡群が検出された田村町大善寺の山中日照田遺跡等がある。古墳も数多く発見されており、前期では東北地方で最大規模の前方後方墳で、全長82m以上をはかる田村町大善寺字大安場の大安場古墳1号墳や、宮田A遺跡で検出された周溝遺構、中期中葉では田村町上行合の北山田古墳群で確認された帆立貝形古墳がある。また、蒲倉町の蒲倉古墳群には7世紀中葉～8世紀中葉にかけて築造された70基もの小円墳がある。

奈良・平安時代になると、小規模集落が営まれる傾向があり、中田町赤沼の赤沼遺跡、石作A遺跡、猫田C・D遺跡、中井田C遺跡、下永田B遺跡、深田A遺跡、中田町高倉の大島遺跡、田村町上行合の北山田遺跡などがあげられる。またこれらと比較して大きな集落としては東山田遺跡がある。

中世は、15～16世紀の中国産磁器・国産陶器や、石臼・茶臼・笹塔婆などが出土した蒲倉町の南A遺跡、43点の石臼が出土した田村町上行合の城山館遺跡、13世紀末～14世紀初頭のかかわりが出土した田村町上行合の良耕地A遺跡、宮耕地遺跡がある。下羽広遺跡の所在する中田町高倉が文献資料に認められるのは永禄11年（1568）7月吉日の『熊野山新宮年貢帳』「二町一貫八百文 高倉」（大祥院文書）が初見である。その後天正14年10月13日（1586）の『熊野山新宮年貢帳』「二町一貫七百七十 高倉」（大祥院文書）で再び認められ、天正18年（1590）10月9日の『田村領知行方指出御帳』には「高倉 式町 此内 壹貫八百文 熊野へ出る」（片倉文書）とあり、当時田村領の統治に当たっていた伊達家筆頭家老片倉小十郎景綱が田村荘の荘園領主熊野山新宮へ年貢を納めていたことがわかる。文禄3年（1594）の『蒲生領高目録』には「高倉 千貳百五十七石二斗七升 田丸」とあり、蒲生家大身の田丸中務少輔具直の知行地であったことがわかる。

蒲生領から三春藩領になり、近世に移り変わると、中田町高倉は一時期幕府領になるが、再び正保2年（1645）に三春藩領となる。三春藩では、年不詳であるが『三春領村高控帳』に「一クリ新田貳拾九石九斗九升九合」と見られるように新田開発が盛んに行われている。享保4年（1719）ので村高・田高・人数・庄屋名を調べると高倉は本田高980石、新田高89石6斗7升、男数560人、女数431人で三本木加市郎・仁右衛門の二人の庄屋がいたことが知られる『三陽骨葉集下』（橋本家文書）。天保2年（1831）の『在々屋敷数家数并人数御改之目録』によると、屋敷数は58軒（但2軒は寺屋敷）、家数150軒、人数合411人、内246人男子、165人女子とある。人数が減少しているのはこの間に高倉村から赤沼村が分村したためであろう。



第2節 歴史的環境

第1表 周辺遺跡一覧(1)

※Noは第1図と同じ・台帳Noは『福島県埋蔵文化財包蔵地台帳分布図』(1996年3月)と同じ

No	台帳No	遺 跡 名	所 在 地	種 別	時 代	備 考
1	2030979	向館跡	安原町字向館	城館跡	中世	
2	2030980	向館遺跡	安原町字向館・南川原	散布地	平安	
3	2030498	安原遺跡	安原町字安原・谷津	散布地	古墳～平安	
4	2030499	川原遺跡	横川町字川原・南川原	散布地	縄文・古墳～平安	
5	2030982	ソリ田塚	横川町字ソリ田	塚	中世	
6	2030983	ソリ田遺跡	横川町字ソリ田	散布地	平安	
7	2030981	大谷地遺跡	安原町字大谷地	散布地	縄文・平安	平2一部調査
8	2030502	蒲倉古墳群	蒲倉町字カチ内・安原町大谷地	古 墳	古墳	昭48・平3・6一部調査
9	2030503	間所内館跡	横川町字大谷地	城館跡	中世	
10	2030984	遠後遺跡	横川町字遠後	散布地	平安	平7一部調査
11	2030500	横川館跡A	横川町字横川	城館跡	中世	
12	2030985	横川館跡B	横川町字横川	城館跡	中世	
13	2031001	上野山遺跡	上野山・水門町	散布地	平安	
14	2030501	前耕地遺跡	横川町字前	散布地	縄文・古墳・平安	
15	2030986	八升蒔遺跡	横川町字横川・八升蒔	散布地	平安	
16	2030987	五升蒔遺跡	横川町字五升蒔	散布地	平安	
17	2030504	大祥院跡	大平町字下川	社寺跡	中世	
18	2030988	四十壇塚群	横川町・大平町・蒲倉町	塚	近世	
19	2030989	小南A遺跡	蒲倉町字小南	散布地	縄文・平安～中世	平5一部調査
20	2030990	小南B遺跡	蒲倉町字小南	散布地	縄文・中世～近世	平4一部調査
21	2030991	小南C遺跡	蒲倉町字小南	散布地	縄文・中世	平4一部調査
22	2030992	南A遺跡	蒲倉町字南	散布地	中世	平5一部調査
23	2030993	古館遺跡	蒲倉町字南・前田	城館跡	中世	平5・6調査
24	2030508	大辰館跡	蒲倉町字広表	城館跡	中世	
25	2030509	蒲倉遺跡	蒲倉町字蒲倉	散布地	古墳～平安	
26	2030998	七ツ割遺跡	蒲倉町字七ツ割	散布地	平安・近世	平5一部調査
27	2030511	荒井館跡	荒井町字道ノ前	城館跡	中世	
28	2030999	三百成遺跡	荒井町字三百成	散布地	縄文	
29	2031000	原掛遺跡	荒井町字原掛	散布地	中世～近世	
30	2030997	鍛冶谷林遺跡	蒲倉町字鍛冶谷林	散布地	中世	
31	2030996	鰯田遺跡	大平町字鰯田	散布地	平安	
32	2030995	南C遺跡	蒲倉町字南	塚	中世	
33	2030994	南B遺跡	蒲倉町字南	散布地	平安～近世	
34	2031004	石作B遺跡	中田町赤沼字石作	散布地	平安	
35	2031005	石作A遺跡	中田町赤沼字石作	散布地	縄文～中世	平3一部調査
36	2031006	猫田C遺跡	中田町赤沼字猫田	散布地	平安	昭62一部調査
37	2031007	猫田E遺跡	中田町赤沼字猫田	散布地	縄文	平3一部調査
38	2031008	猫田D遺跡	中田町赤沼字猫田	散布地	縄文	昭62一部調査
39	2031009	猫田B遺跡	中田町赤沼字猫田	散布地	平安	
40	2031003	大平遺跡	大平町字大平	散布地	平安	
41	2030523	中道遺跡	大平町字中道・平・向川原	散布地	古墳～平安	
42	2030522	大平後田遺跡	大平町字後田	散布地	古墳～平安	
43	2030521	御前田遺跡	大平町字御前田	散布地	古墳～平安	
44	2031002	御膳前遺跡	田村町下行合字御膳前・根柄巻	散布地	平安	
45	2030530	正尊遺跡	田村町下行合字正尊	散布地	古墳～平安	

第2表 周辺遺跡一覧(2)

※No.は第1図と同じ・台帳No.は『福島県埋蔵文化財包蔵地台帳分布図』(1996年3月)と同じ

No.	台帳No.	遺 跡 名	所 在 地	種 別	時 代	備 考
46	2030024	前田遺跡	田村町下行合字前田	散布地	平安	昭59一部調査
47	2030531	下中内遺跡	田村町下行合字下中内・宮田	散布地	古墳～平安	
48	2030532	宮田A遺跡	田村町下行合字宮田	散布地	旧石器・古墳～平安	
49	2030533	五郎内遺跡	田村町下行合字五郎内	散布地	古墳～平安	
50	2030534	中井田A遺跡	中田町赤沼字中井田・永田	散布地	古墳～平安	昭60 1基調査
51	2030526	下永田A遺跡	中田町赤沼字下永田	散布地	縄文・古墳～平安	
52	2030524	榊壇古墳群	田村町下行合字朝日舞	古 墳	古墳	
53	2030525	下永田B遺跡	中田町赤沼字下永田	散布地	縄文～弥生・平安	
54	2030539	赤沼遺跡	中田町赤沼字赤沼・瀬戸・西平	散布地	縄文・古墳～平安	昭61一部調査
55	2030541	赤沼供養塔	中田町赤沼字赤沼	散布地	中世	
56	2030540	赤沼館跡	中田町赤沼字西平・瀬戸	城館跡	中世	
57	2031010	深田A遺跡	中田町赤沼字深田	散布地	平安	
58	2031011	深田B遺跡	中田町赤沼字深田	散布地	平安	昭61一部調査
59	2031121	台遺跡	中田町高倉字台	散布地	縄文	
60	2031013	台供養塔	中田町高倉字台	石造物	中世	
61	2031015	茂平前遺跡	中田町高倉字茂平前	散布地	平安	
62	2031014	萩平遺跡	中田町高倉字萩平	散布地	平安	平4・5調査
63	2031020	高倉上館跡	中田町高倉字高太郎内・上館	城館跡	中世	
64	2030546	高倉中館跡	中田町高倉字中館	城館跡	中世	
65	2031016	古御館跡	中田町高倉字古御館	城館跡	中世	
66	2030543	宮ノ脇遺跡	中田町高倉字宮ノ脇	散布地	縄文・平安～中世	昭60・61一部調査
67	2031012	下川原遺跡	中田町高倉字下川原	散布地	平安	
68	2031017	井戸神遺跡	中田町高倉字上井戸神	散布地	縄文	
69	2031103	高倉栗遺跡	中田町高倉字栗	散布地	縄文	
70	2030594	オサン壇塚	中田町高倉字栗	塚		昭60・61一部調査
71	2030544	大壇塚群	中田町高倉字松山	塚		
72	2030545	行人壇塚	中田町高倉字行人坦	塚		
73	2030542	倉屋敷遺跡	中田町赤沼字蔵屋敷	散布地	縄文・平安	
74	2030538	杉並遺跡	中田町赤沼字杉並	散布地	古墳～平安	昭61一部調査
75	2030536	中井田C遺跡	中田町赤沼字中井田	散布地	古墳～平安	
76	2030535	中井田B遺跡	中田町赤沼字中井田	散布地	古墳～平安	
77	2030537	大島遺跡	中田町赤沼字大島	散布地	古墳～平安	
78	2030570	北原遺跡	田村町手代木字北原	散布地	縄文・平安	昭52・60・62・63 8基調査
79	2030569	三斗蒔遺跡	田村町手代木字三斗蒔	散布地	古墳～平安	
80	2030568	北山田古墳群	田村町上行合字北山田中山田	古 墳	古墳	
81	2031029	良耕地C遺跡	田村町上行合字良耕地	散布地	古墳～平安	
82	2031028	良耕地D遺跡	田村町上行合字良耕地	散布地	平安	昭59一部調査
83	2031026	宮田B遺跡	田村町上行合字宮耕地	散布地	平安～中世	
84	2030567	亀河内供養塔群	田村町上行合字亀河内	石造物	中世	
85	2031030	亀河内遺跡	田村町上行合字亀河内	散布地	古墳～中世	
86	2030573	城山館跡	田村町上行合字城山	城館跡	中世	平元一部調査
87	2030580	かぶつ壇古墳	田村町上行合字南山田	古 墳	古墳	
88	2030574	南山田古墳群	田村町上行合字南山田	古 墳	古墳	
89	2030579	南山田遺跡	田村町上行合字南山田	散布地	弥生～平安	
90	2030575	永作遺跡	田村町手代木字永作	散布地	古墳～平安	昭61一部調査

第 2 節 歴史的環境

第 2 表 周辺遺跡一覧(3) ※Noは第 1 図と同じ・台帳Noは『福島県埋蔵文化財包蔵地台帳分布図』(1996年 3 月)と同じ

No	台帳No	遺 跡 名	所 在 地	種 別	時 代	備 考
91	2030581	永作 B 遺跡	田村町手代木字永作	散布地	古墳～平安	昭61一部調査
92	2030582	川久保遺跡	田村町手代木字川久保	散布地	古墳～平安	
93	2031031	館遺跡	田村町手代木字館	城館跡	中世	
94	2030571	柵内遺跡	田村町手代木字柵内	散布地	縄文～平安	
95	2030576	無ノ草遺跡	田村町手代木字無ノ草	散布地	縄文	
96	2030577	鴨打 A 遺跡	田村町手代木字鴨打・無ノ草	散布地	縄文・古墳・平安	平 2 ～ 5 一部調査
97	2030572	鴨打 B 遺跡	田村町手代木字北ノ作	散布地	縄文	平 2 一部調査
98	2031018	行人坦遺跡	中田町高倉字行人坦	散布地	奈良～平安	22基
99	2031019	深谷遺跡	中田町高倉字深谷	散布地	奈良～平安	
100	2030595	下羽広遺跡	中田町高倉字下羽広・竹ノ内	散布地	縄文・平安・近世	
101	2030596	羽広壇塚群	中田町高倉字羽広	塚		
102	2030597	畑中壇塚	中田町高倉字畑中	塚		
103	2030642	大六遺跡	田村町金沢字大六	散布地	縄文・古墳～平安	
104	2031046	ヤシウリ塚群	田村町小川字ヤシウリ	塚		
105	2030641	岡市 A 遺跡	田村町小川字岡市	散布地	古墳～平安	
106	2031044	戸ノ内 C 遺跡	田村町小川字戸ノ内	散布地	平安	
107	2031043	戸ノ内 B 遺跡	田村町小川字戸ノ内	散布地	平安	
108	2031045	小川館跡	田村町小川字館	城館跡	中世	
109	2030630	小川供養塔	田村町小川字館	石造物	中世	
110	2031034	田中遺跡	田村町小川字田中	散布地	平安	
111	2030593	七所神社経塚	田村町小川字田中	塚	中世	
112	2031033	小川後田 B 遺跡	田村町小川字後田	散布地	平安	
113	2031032	手代木中林遺跡	田村町手代木字中林	散布地	平安	
114	2030583	妻見塚遺跡	田村町手代木字妻見塚	散布地	古墳～平安	昭60一部調査
115	2030584	妻見塚古墳群	田村町手代木字妻見塚	古 墳	古墳	昭60 2 基調査
116	2030591	小川後田 A 遺跡	田村町小川字後田	散布地	縄文・奈良～平安	1 基
117	2031104	後田供養塔	田村町小川字後田	石造物	中世	
118	2030592	後田古墳群	田村町小川字後田	古 墳	古墳	
119	2031090	下田遺跡	田村町小川字下田	散布地	奈良～平安	
120	2030589	羽黒堂 A 遺跡	田村町大善寺字羽黒堂	散布地	縄文～平安	
121	2031040	中山田古墳群	田村町大善寺字中山田	古 墳	古墳	12基
122	2031036	羽黒堂 B 遺跡	田村町大善寺字羽黒堂	散布地	平安	昭56一部調査 昭56一部調査
123	2030588	羽黒堂塚	田村町大善寺字羽黒堂	塚		
124	2030628	山中日照田遺跡	田村町大善寺字中山田	散布地	弥生・古墳～平安	
125	2030634	上野遺跡	田村町山中字上野・小川字上野	散布地	古墳～平安	
126	2030631	下田横穴群	田村町小川字下田	古 墳	古墳	
127	2030632	岡市供養塔	田村町小川字岡市	石造物	中世	
128	2031041	岡市 B 遺跡	田村町小川字岡市・角生内	散布地	平安	
129	2030629	蝦夷穴横穴群	田村町小川字下田	古 墳	古墳	
130	2031042	戸ノ内 A 遺跡	田村町小川字戸ノ内	散布地	平安	

第2章 調査の経緯

第1節 調査に至るまで

今回の発掘調査の原因となっている市道小川高倉線改良工事は、国営郡山東部開拓事業（以下、国営東部と略する）第6工区内の農地基盤整備事業に併行して行われる道路整備事業である。郡山市建設部道路建設課は道路改築にあたって、今年度の道路計画予定地である中田町高倉字下羽広地内における遺跡の存在の有無を平成8年4月に郡山市教育委員会に対して照会を行った。同地内では下羽広遺跡が周知されており、平成6年8月に試掘調査が実施されて遺構の存在が確認されていた。また、周辺地区において平成7年度に下羽広遺跡第1次発掘調査が国営東部に関連して実施されていたために、郡山市教育委員会は工事の施工方法によっては発掘調査が必要であるとの回答を行った。

道路建設課より工事計画図が提示され、遺跡にかかる3,650㎡の地区が削平部分であることから発掘調査が実施されることとなった。平成8年11月1日に郡山市教育委員会より調査を受託した財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団は同日より業務に着手し、平成9年1月17日に屋外業務を終了した。

第2節 調査経過

平成7年

- 11月1日(金) 調査区の縄張りを行う。調査前写真撮影を行う。
- 11月6日(水) 現況の地形測量を開始する。
- 11月22日(金) 地形測量終了。
- 12月9日(月) 機材の搬入を行う。立ち木の伐採を開始する。
- 12月11日(水) 伐採終了。焼却を行う。
- 12月13日(金) 表土除去を開始する。
- 12月17日(火) 77～79号土坑を検出する。谷部にベルトを設定し、黒色土の掘り下げを行う。
- 12月19日(木) 標高の移動及び、グリッドの設定を行う。地形図の作成を開始する。
- 12月20日(金) 表土除去終了。
- 12月24日(火) 谷部黒色土の掘り下げを開始する。80号土坑を検出する。
- 12月26日(木) 谷部黒色土の掘り下げを終了する。81号土坑を検出する。

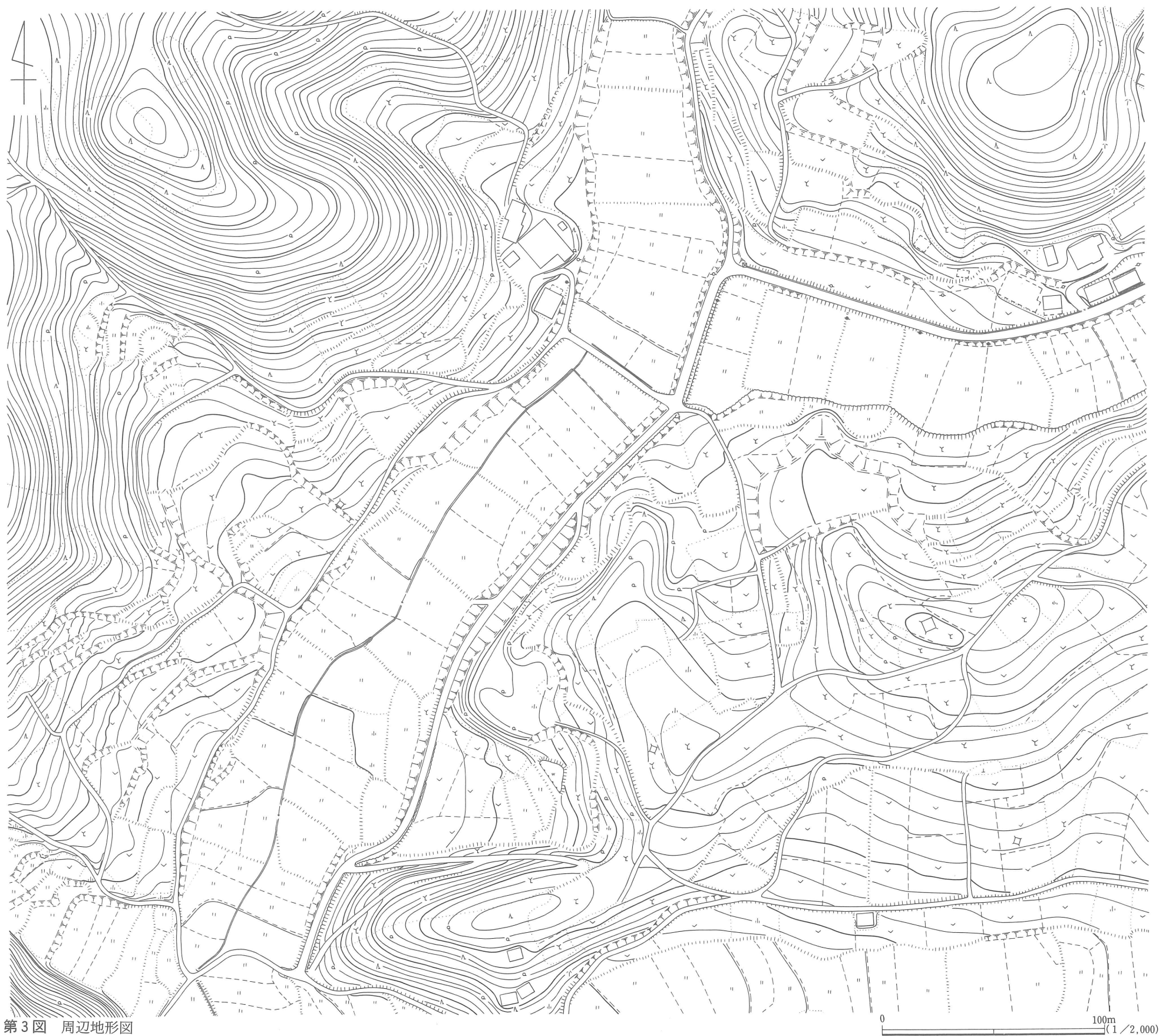
平成8年

- 1月14日(火) 航空写真撮影を行う。
- 1月16日(木) 石切場の平面図作成を行う。プレハブ・トイレの撤去を行う。
- 1月17日(金) 石切り場の平面図作成を終了し、すべての作業を終了する。

第2節 調査経過



第2図 施工図



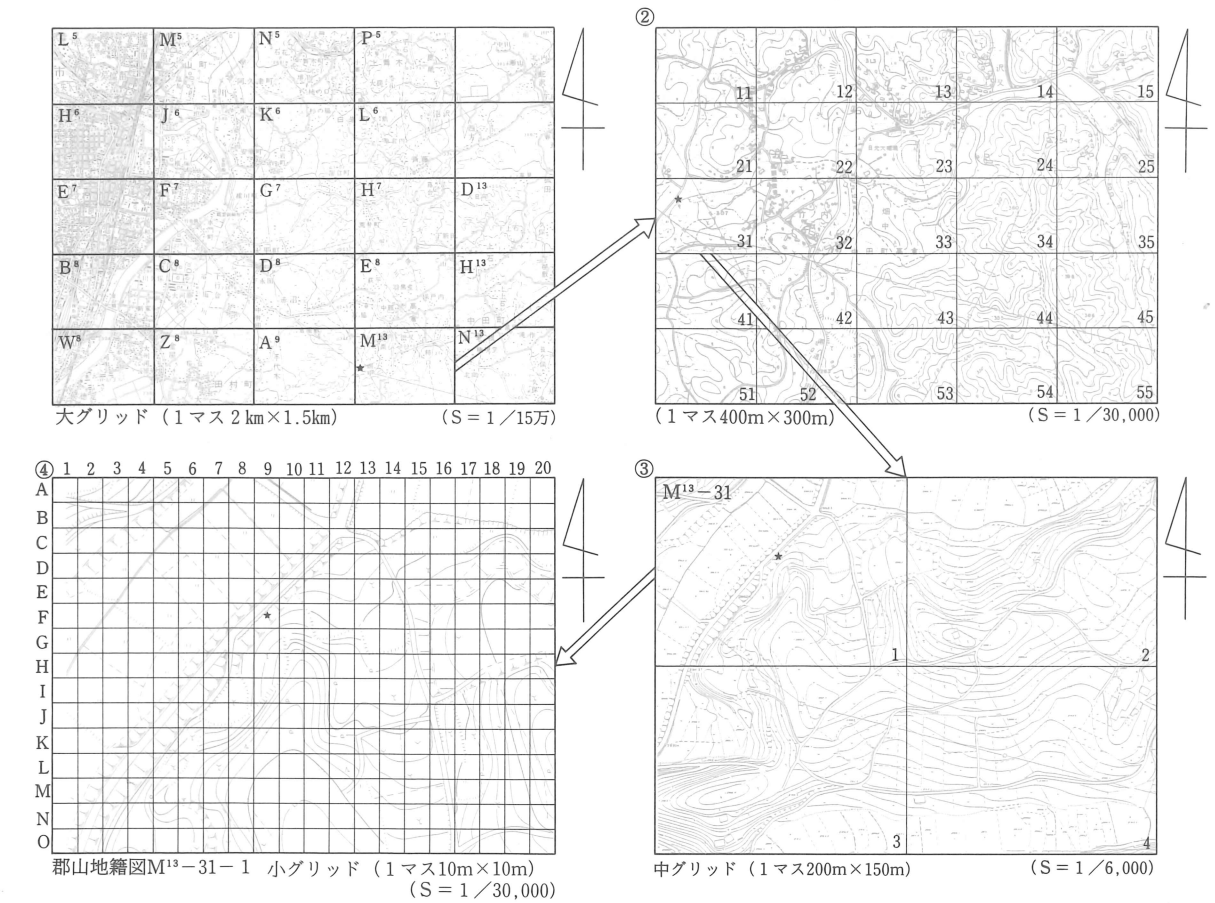
第3图 周边地形图

第3節 グリッドの設定

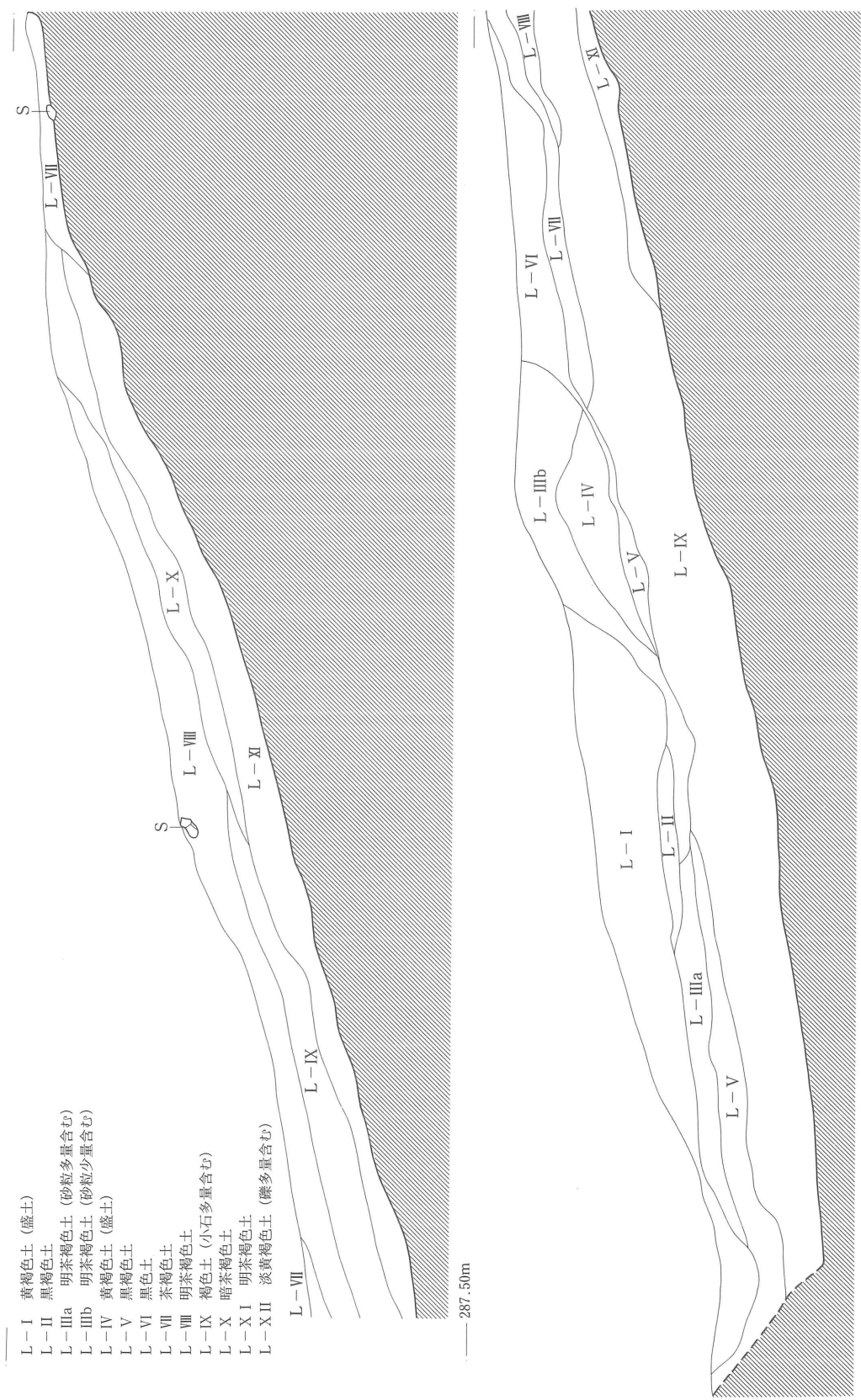
発掘調査にあたっては、法定座標に基づいて調査地区の地割りを行った。郡山市は国土基本図に基づく平行直角座標第IX系E E及びF Fに当たり、これが4 km×3 kmの区画に細分されている。この区画をさらに4分割して第5図-①、のように2 km×1.5 kmの範囲に設定し、これを大グリッドとした。これを25分割した1区画（東西400 m×300 m、第4図-②）をさらに4分割した1区画（東西200 m×南北150 m）を中グリッドとした。（第4図-③）この中グリッドは「郡山市地籍図」1枚にあたり、これを300（東西20×南北15）分割した1区画（10 m四方）を小グリッドとし（第4図-③）、これを地区割りの最小単位とした。小グリッドの記号・番号は、中グリッドにあたる「郡山市地籍図」の北西隅を起点とし、北から南へ記号（A～O）、西から東へ番号（1～20）を付け表記した。原則として、土坑などの遺構は小グリッドで表記した。

《例》★の地点を表記すると以下ようになる。

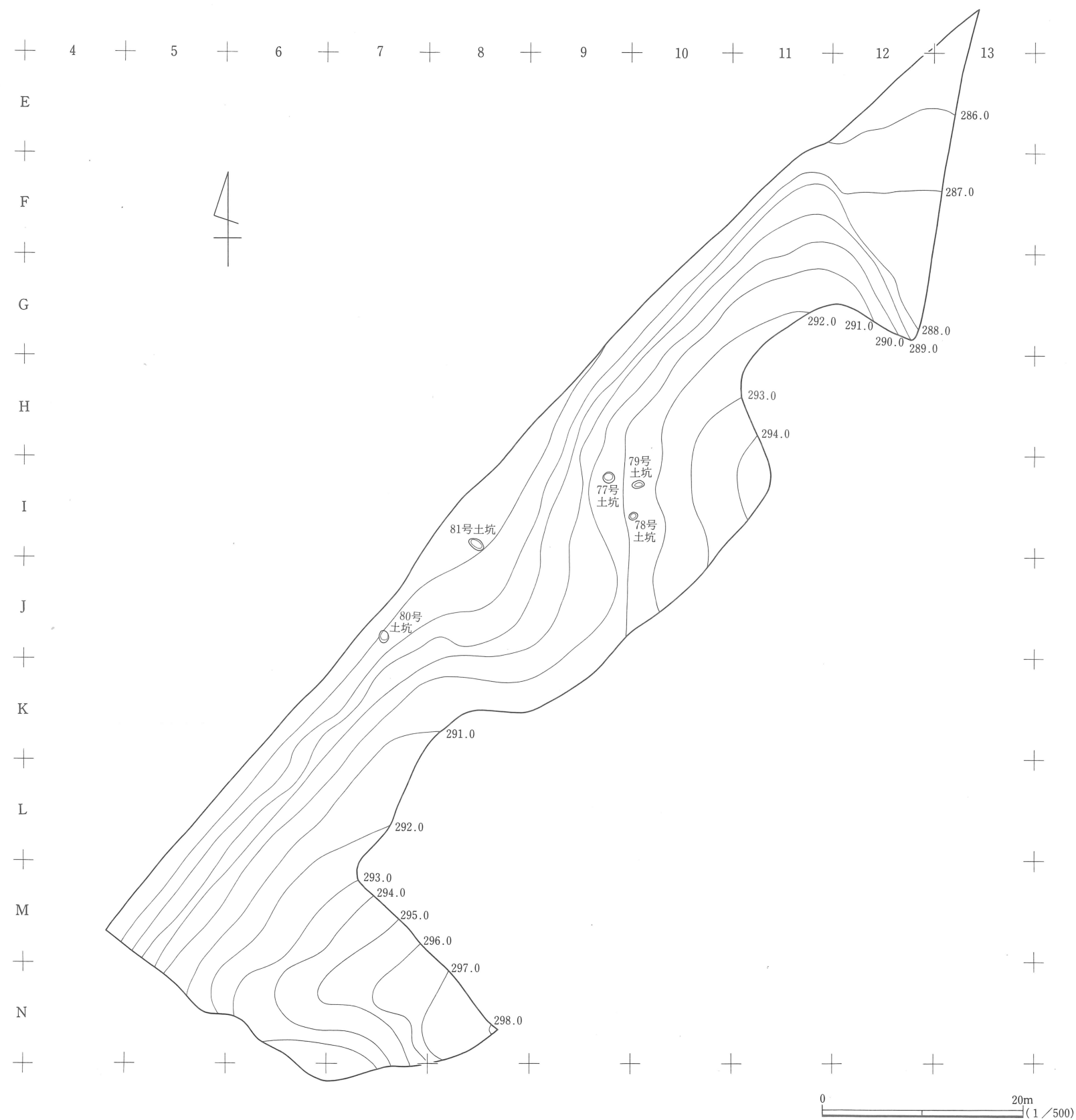
大グリッドM¹³、中グリッドで31-1、小グリッドでF-9に入り、あわせて(M¹³-31-1-F-9)と表示する。



第4図 グリッド設定図 ★印の地点表示 M¹³-31-1-F-9 縮尺不同



第5図 基本区序



第6図 全体図

第3章 遺構と遺物

第1節 調査概要

本跡では調査区中央の平坦部及び西側斜面から谷部底面において土坑5基を検出した。調査区北端の低地部は畑地開墾のための削平が大半に及んでおり、遺構は認められなかった。南端部には凝灰岩の堆積層が認められ、石の切り出しが行われた痕跡が認められた。現況から判断して、石切場はさらに南側に拡がると考えられる。遺物は、遺構に伴うものとしては80号土坑の石鏃1点と78号土坑の骨片だけである。谷部黒色土層中から土器片数片が出土したが、いずれも小破片で磨耗がはげしく図化することはできなかった。

第2節 土 坑

77号土坑

〔遺 構〕(第7図 図版2)

I-9グリッドに位置し、ローム上面で検出した。丘陵上の平坦部にあり、南東側3.5mに78号土坑、東側2mに79号土坑がある。径125×110cm、深さは20cmを測り、平面形は円形を呈する。堆積土は茶褐色土の2層で、上層に骨片を微量に含んでおり、全体に締まりは弱かった。

〔遺 物〕

出土しなかった。

78号土坑

〔遺 構〕(第7図 図版2)

I-9・10グリッドに位置し、ローム上面で検出した。丘陵上に平坦部にあり、北西側3.5mに77号土坑、北側2.4mに79号土坑がある。径80×76cm、深さは30cmを測り、平面形は円形を呈する。堆積土は茶褐色土と黒褐色土の2層で、上層に多量の骨片を含んでおり、全体的に締まりは弱かった。

〔遺 物〕

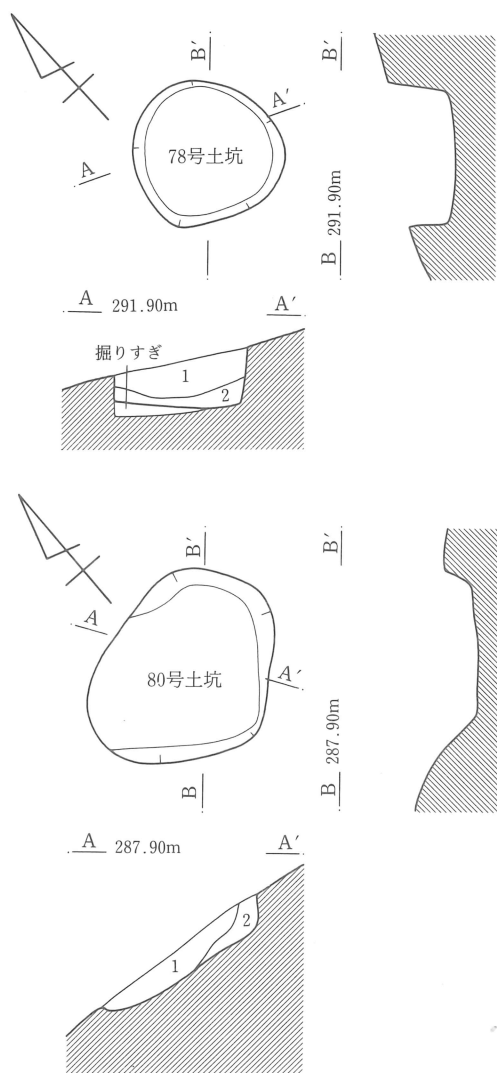
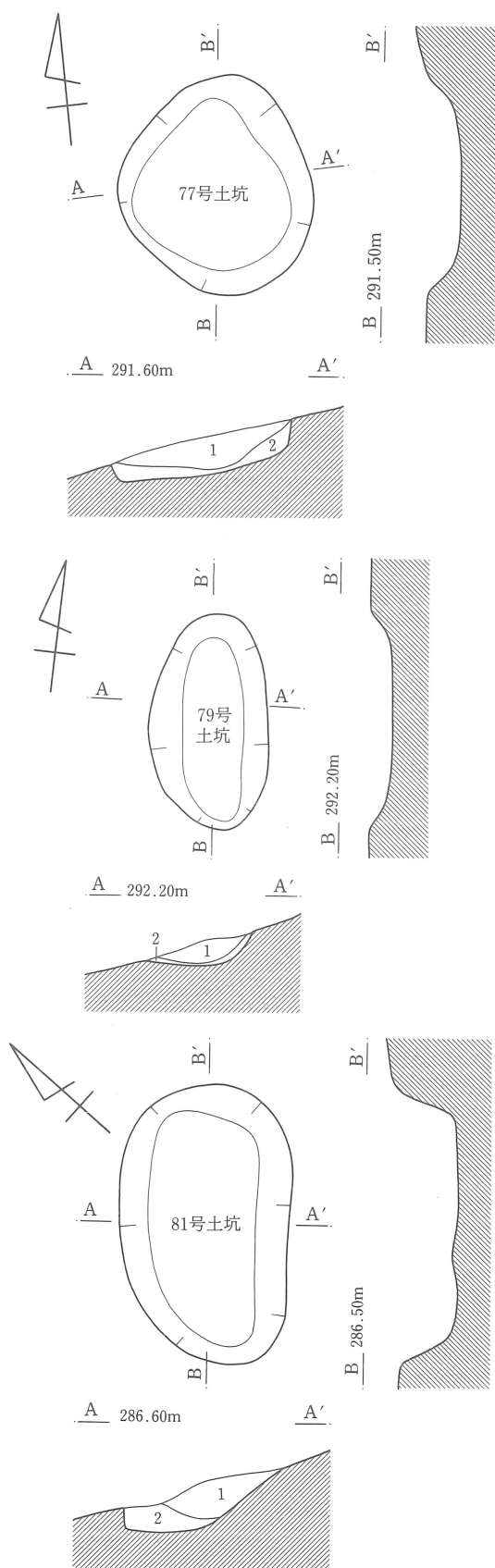
骨片が出土した。骨片には歯、背骨、脚部の一部と思われるものが認められるが、頭部などではなく種類を限定することはできなかったが、大型の哺乳動物と考えられる。部分的に被熱が認められた。

79号土坑

〔遺 構〕(第7図 図版2)

I-10グリッドに位置し、ローム上面で検出した。丘陵上の平坦部にあり、西側2mに77号土坑、南側2.4mに78号土坑がある。径123×70cm、深さは15cmを測り、平面形は楕円形を呈する。堆積土は茶褐色土の単層で、全体的に締まりは弱かった。

第2節 土 坑



77号土坑

- 1 茶褐色土 (骨片少量含む、粘性なし、締まりなし)
- 2 茶褐色土 (砂粒少量含む)

78号土坑

- 1 茶褐色土 (粘性なし、締りなし)
- 2 黒褐色土 (炭化粒少量含む、粘性ややあり、締りなし)

79号土坑

- 1 茶褐色土 (粘性なし、締りなし)

80号土坑

- 1 茶褐色土 (炭化粒微量含む、粘性なし、締りあり)
- 2 黄褐色砂質土 (粘性あり、締りあり)

81号土坑

- 1 黒褐色土 (パミス少量含む、粘性なし、締りあり)
- 2 茶褐色土 (パミス少量含む、粘性なし、締りあり)

0 2m (1/40)

第7図 土坑



[遺物]

出土しなかった。

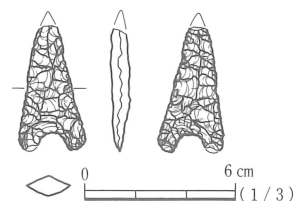
80号土坑

[遺構] (第7図 図版2)

J-7グリッドに位置し、ローム上面で検出した。丘陵西斜面にあり、北東12mに81号土坑がある。径115×95cm、深さは15cmを測る。斜面地のため西側の立ち上がりはほとんど認められなかったが、平面形は円形を呈する。堆積土は茶褐色土と黄褐色砂質土の2層で、上層に炭化粒を微量に含んでおり、全体的に締まりは弱かった。

[遺物]

石鏃1点が出土している。先端を欠損しているが、残存長25mm×幅13.5mm×厚さ4.0mm×重量110mgを測り、石質は蛋白石である。凹基無茎鏃で基部の抉りは比較的浅く、脚部は丸みを帯びる。



第9図 出土遺物

81号土坑

[遺構] (第7図 図版2)

I-8グリッドに位置し、ローム上面で検出した。谷部底面付近にあり、北東13.5mに77号土坑、南西12mに80号土坑がある。径160×95cm、深さ35cmを測り、平面形は楕円形を呈する。堆積土は黒褐色土と茶褐色土の2層で、全体に少量のパミスを含み、全体に硬く締まっていた。

[遺物]

出土しなかった。

第3節 石切り場跡

調査区南端のN・M・O-5～8グリッドに凝灰岩質の堆積層が認められ、切り出しの痕跡が認められた。堆積層は丘陵南～西側の斜面に分布し、さらに調査区外南側の平坦部に向かって広がるものと考えられる。調査区外の平坦部には切り出しのためと思われる凹地が見られることから、等高線図の作成を行った。また、調査区外に石造物「石山神宮 天保二年」(1832年)が設置されており、少なくとも江戸時代末期には当地において切り出しが行われていたことが窺える。

第4章 ま と め

下羽広遺跡では、今回の調査に先行して平成7・8年度に第1次・第2次調査が行われている。第1次調査区は第3次調査区の東側に隣接しており、縄文時代の落とし穴、弥生時代の再葬墓、平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡、江戸時代の墓穴・茶毘所跡等が見つかっている。遺構の大半は南側斜面に集中しており、3次調査区の隣接地帯を含む大半の部分での遺構の検出率は高くない。第2次調査区は1次調査区の東側に隣接しており、縄文時代中期の竪穴住居跡・埋甕、晩期の掘立柱建物跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡、江戸時代の屋敷跡等が見つかっており、遺構の大半は調査区の東側に集中していた。以上のことから、下羽広遺跡の立地する台地東側には縄文時代の集落が展開し、南側斜面には平安時代の集落が営まれていたであろうことが想定できる。江戸時代には屋敷が構築されてはいるが、1棟だけであり、他は畑地等に利用されていたのであろう。また、近世集落の墓地が第1次調査区内に散在している。

第3次調査においては土坑5基が検出されたが、80号土坑を除いて時期決定の資料となる遺物は出土しなかった。80号土坑は出土した石鏃から縄文時代に属すると考えられるが、本調査区内から該期の土器が出土しておらず、明確な時期については不明である。77・78号土坑からは骨片が認められ、また79号土坑も近接した位置にあることから同時期の同様な使用目的をもったものと考えられる。78号土坑出土の骨片は大型の哺乳動物のものと推定され、部分的に被熱していた。しかし、土坑自体には被熱の影響が認められないこと、骨が部分的にしか遺存していない点からゴミ捨て場的に掘られたものと考えられる。81号土坑は堆積土の状態から77～79号土坑との時期差が考えられるがこれも時期は不明である。

石切り場については、山神を祀る天保二年（1831年）銘の碑が認められることから、江戸時代末期には切り出しが行われていたことは確実であり、明治初頭まで切り出しが行われていたことは地元の伝承からも窺える。下羽広地内には元禄・享保・寛保・延享・明和・安永・寛政・文化・文政・天保・嘉永・明治の年号の墓石が認められ、それらはいずれも石切り場と同じ凝灰岩が使用されている。このことから、創業は17世紀末～18世紀初頭まで遡る可能性がある。

なお、中田町の近世以前の石造物の中には板碑が25本^(註1)あり、高倉地内には4本の板碑が認められる。挿図No.11の②「台供養塔」と挿図No.12③は「キリーク」一尊種子、挿図No.12④と挿図No.13⑤はいずれも「ア・ビ・ラ・ウン・ケン」が刻まれている。これらは紀年号が刻まれておらず、時期については不明であるが、大半が凝灰岩製であり、本遺跡の石切り場から切り出された可能性も考えられる。

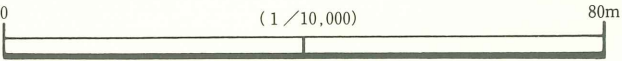
（註1）1970『郡山市の石造供養塔』郡山市教育委員会

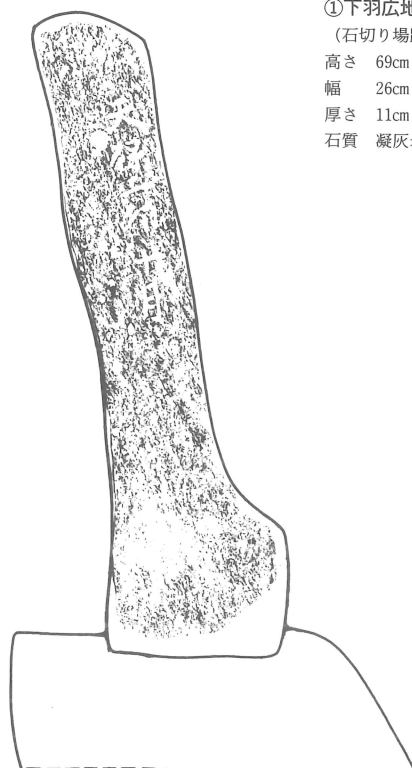
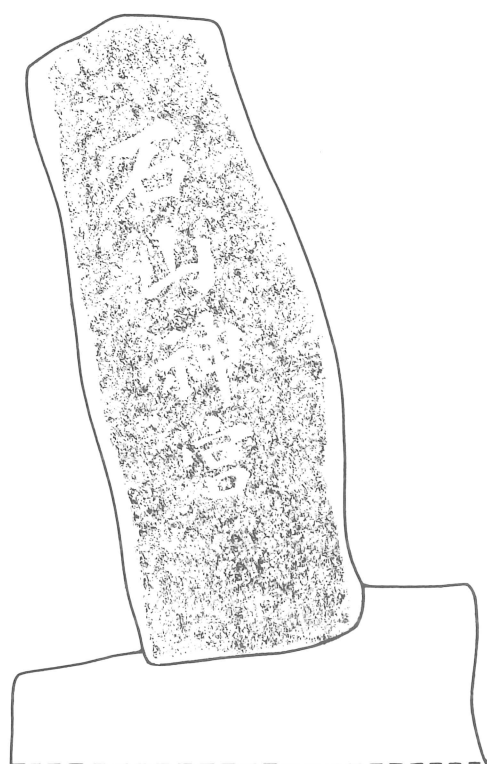
参考文献

- | | |
|-----------|---|
| 福森久晃・高井剛 | 1996 「下羽広遺跡」『国営東部19』郡山市教育委員会 |
| 鈴木道之介 | 1983 「石鏃」『縄文文化の研究7』雄山閣 |
| 徳山暉純 | 1976 『梵字手帳』木耳社 |
| 小沢国平 | 1978 『板碑入門』国書刊行会 |
| 宗像亀嘉他 | 1977 『中田町の文化財 第1集』郡山市中田町郷土史研究会 |
| 堀江格・佐藤勝比古 | 1995 「福島県の板碑」『東北の板碑と中世社会』東北中世考古学会 第1回研究大会資料 |

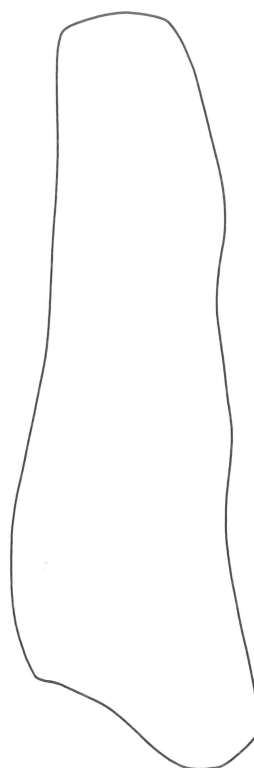


第10図 高倉地内板碑分布図





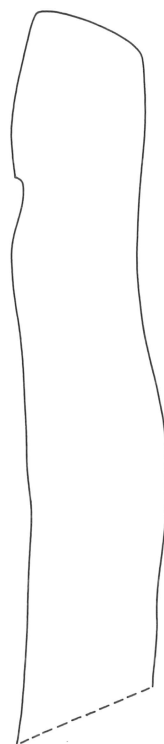
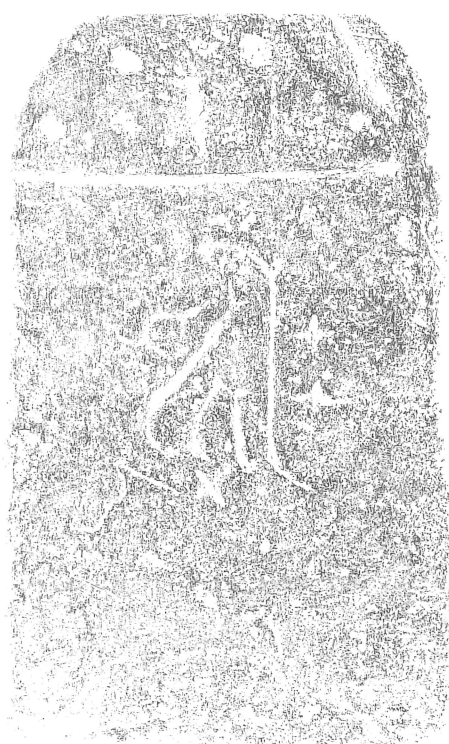
①下羽広地内
(石切り場跡)
高さ 69cm
幅 26cm
厚さ 11cm
石質 凝灰岩



②八幡神社
高さ 80cm
幅 50cm
厚さ 18cm
石質 凝灰岩

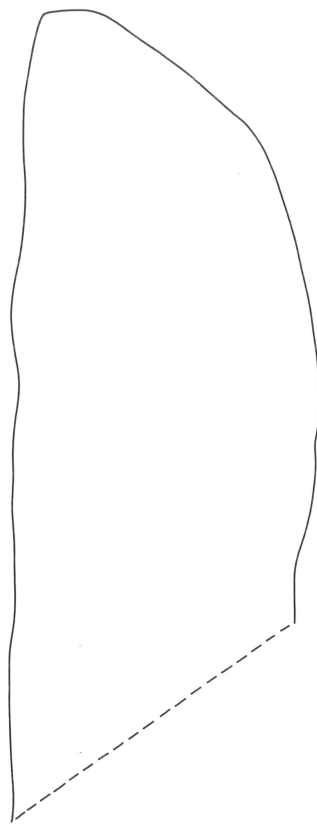
0 40cm (1/8)

第11図 石造物(1)



③三渡地内
高さ 97cm以上
幅 57cm
厚さ 18cm
石質 凝灰岩

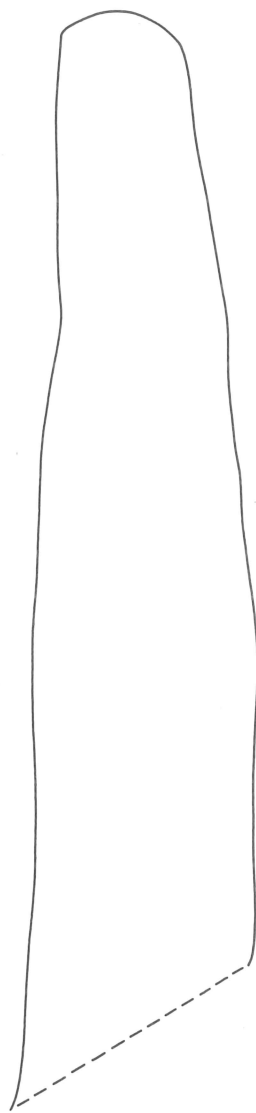
0 50cm
(1/10)



④古館地内No. 1
高さ 127cm以上
幅 70cm
厚さ 50cm
石質 花崗岩

0 50cm
(1/12)

第12図 石造物(2)



⑤古館地内No. 2
高さ 151cm以上
幅 76cm
厚さ 30cm
石質 凝灰岩

0 50cm (1/10)

第13図 石造物（3）



版





1 下羽広遺跡全景（上方から）



2 下羽広遺跡全景（上方西から）

図版 2 土 坑



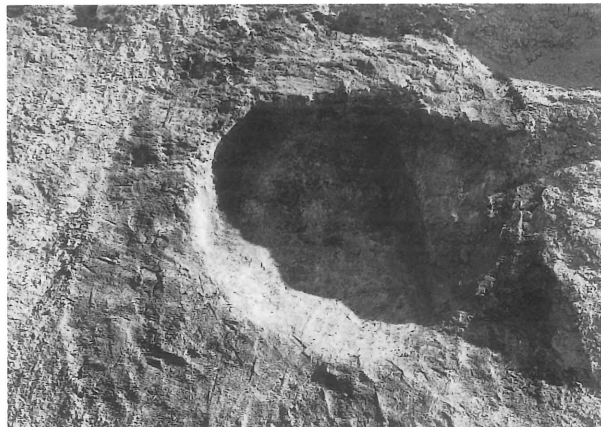
1 77号土坑全景（南から）



2 78号土坑全景（南から）



3 79号土坑全景（南から）



4 80号土坑全景（西から）



5 81号土坑全景（西から）



6 作業風景



7 作業風景



8 作業風景



1 石山神宮 (東から)



2 台供養塔 (東から)

図版 4 石造物（2）



1 三渡地内板碑（東から）



2 古御館地内板碑（西から）

報告書抄録

ふりがな	しもはびろいせき							
書名	下羽広遺跡							
副書名	第3次調査報告							
シリーズ名	市道小川高倉線改良工事関連							
シリーズ番号								
編著者名	高橋博志 中島雄一							
編集機関	財団法人 郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団							
所在地	〒963 福島県郡山市本町二丁目20番22号					TEL0249(34)8358		
発行機関	福島県郡山市教育委員会							
所在地	〒963 福島県郡山市朝日町一丁目23番7号					TEL0249(24)2661		
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
しもはびろいせき 下羽広遺跡	こおりやましなかたまち 郡山市中田町 たかくらあざしもはびろ 高倉字下羽広 ・たけのうち ・竹ノ内	07203	2030595	37°21'26"	140°26'45	19961101～ 19970117	3,650㎡	市道小川高倉線 改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下羽広遺跡	散布地	縄文時代 近世	土坑5基		石鏃 縄文土器破片 近世陶器破片			

市道小川高倉線改良工事関連
下 羽 広 遺 跡
—第3次調査報告—

発行日 平成 9 年 3 月 31 日
編集 財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
発行 福島県郡山市建設部道路建設課

福島県郡山市教育委員会
〒963 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

財団法人郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団
〒963 福島県郡山市本町一丁目20番22号

印刷 株式会社 日進堂印刷所
〒960-21 福島県福島市庄野字柿場1-1

